

# 取扱説明書

作業用救命衣(膨脹式)  
(小型船舶用救命胴衣兼用)

NS-555型



日本船具株式会社

# 目 次

|                                 | ページ |
|---------------------------------|-----|
| 1・はじめに .....                    | 2   |
| 2・本書の表記(警告)について .....           | 2   |
| 3・必ず守っていただくこと【安全のための注意事項】 ..... | 3   |
| 4・製品の主な規格と概要 .....              | 4   |
| ・ 本製品をお使いになる前に .....            | 4   |
| ・ 各部の名称(標準品・Sailing) .....      | 5   |
| 5・自主点検表 .....                   | 6   |
| 6・着用方法及び使用方法 .....              | 8   |
| 7・ご使用後の取扱いについて .....            | 9   |
| ・ スプールとポンベの交換方法及び再セットの方法 .....  | 9   |
| ・ 折りたたみ方法 .....                 | 10  |
| ・ 保管上の注意及びメンテナンス .....          | 13  |
| 8・製品の交換次期及び廃棄の方法 .....          | 14  |

## 1. はじめに

この度は作業用救命衣(小型船舶用救命胴衣兼用)NS-555型をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。海上、水上等で本製品を安全にご使用していただく為、本書を作成いたしました。本書には、本製品を安全にご使用いただくための重要な事項が記載されております。本製品をご使用になる前によくお読みになり、ご理解の上、本製品を正しくご使用いただきますようお願い申し上げます。

また、本書は本製品をご使用になる際、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

## 2. 本書の表記(警告)について

下記の表示は本製品を安全に正しくご使用いただき、使用者や周囲の方に起こりうる恐れのある危険や損害を未然に防止する為の目安となるものです。内容をよくご覧の上、本書をお読みくださいますよう、お願い申し上げます。



**危険**

この表示を無視して誤った取り扱いを行なった場合、使用者が死亡または重傷を招く切迫した状態が想定されることを示しています。



**警告**

この表示を無視して誤った取り扱いを行なった場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性があることを示しています。



**注意**

この表示を無視して誤った取り扱いを行なった場合、使用者が障害を負う危険性、並びに物的損害の危険性があることを示しています。

### 3. 必ず守っていただくこと

#### 【安全のための注意事項】



#### 危険

- この作業用救命衣(小型船舶用救命胴衣兼用)(以下本製品という)は、救命設備としての用途以外には使用しないでください。
- 本製品は一人用です。複数での使用は絶対にお止めください。
- ご使用前に必ず点検を行ってください(P.6参照)。本製品の点検は、所有者が責任を持ってメンテナンスを行なうようにし、自主点検表に従って日付と結果を記入してください。
- 着用方法及び使用方法(P.8参照)をよくお読みになり、着用手順に従って正しくかつ正確に着用してください。誤った方法で着用しますと、救命胴衣本来の機能が損なわれる恐れがあり、最悪の場合、溺死することがあります。
- 気室本体に傷をつけないでください。気室本体に穴があくと注入した炭酸ガス等が漏れることとなり、本来の機能を果たすことができません。傷等による破損の可能性がある場合には直ちに確認し、異常があった場合には使用を中止し、新しいものと交換してください。
- 本製品を分解または、改造しないでください。
- 膨脹装置本体は絶対に取り外さないでください。膨脹装置が作動したときに炭酸ガス等が漏れて気室が膨脹しなくなります。
- 膨脹装置を作動させると、炭酸ガスポンベ(以下ポンベという)のガスがなくなり再使用できません。膨脹装置を作動させた場合は、必ずポンベとスプールを新しいものと交換してください。
- 水中で浮遊する場合、本製品に損傷を与えるようなものに注意してください。気室に損傷を与えると溺死する場合があります。
- 高所などの危険な場所では自動膨脹式の救命胴衣を使用しないでください。
- 膨脹させて水中に入る場合、3mを越えた高さから飛び込まないでください。
- 手動膨脹は、 $-10^{\circ}\text{C}$ 以下の気温で使用しないでください。また自動膨脹の場合、 $0^{\circ}\text{C}$ 付近では遅い反応で膨脹します。
- 本製品は、泳げない方にはお薦めできません。
- 水中で使用(浮遊中)は、絶対に気室内のガス等の気体を抜いたりしないでください。
- 高湿度や雨などの水分で不意に膨脹装置が作動することがあります。また、内部のスプールが濡れると自動膨脹する為、強い波や雨等の水が膨脹装置にあたらないようにしてください。



#### 警告

- 本製品を投げたり、落としたり、乱暴に扱う、強い衝撃を与える等の行為をしないでください。膨脹装置の故障や誤作動による不具合や気体の漏れ等が生じる場合があります。
- 火気には近づけないでください。気室本体に穴があく恐れがあります。
- 突起物等の突き刺し、引っ掛けなどの破損には十分注意してください。本製品を着用する場合は、気室本体を傷つける恐れのあるもの(ネクタイピン・バッジ等)は着用する前に取り外しておいてください。
- 本製品の膨脹装置を作動させる前に、補助充気装置の送気管から空気を注入しないでください。膨脹装置が作動した時、気室内の圧力が過大になり気室本体が破損する恐れがあります。
- 本製品を着用する場合は、必ず着衣等の上から着用してください。  
着衣の内側に着用すると自動膨脹装置の作動が遅れたり、膨脹するスペースが制限される等して、本来の機能が阻害される恐れがあります。
- 本製品を膨脹させて水中に入る場合、正確に着用しているか確認してから手動作動索を引き、膨脹した本製品を抱きかかえるようにしっかり押さえて水中に飛び込んでください。
- 本製品は落水時など水分を感知して膨脹装置を作動させる補助的機能も付いていますが、素早く安全を確保する意味で手動作動索を下方へ引いて膨脹させてください。万一、膨脹装置が作動しない場合は面ファスナーを全て外し、補助充気装置のキャップを外して送気管から直接息を吹き込んで膨脹させてください。
- 補助充気装置の送気管は絶対に折り曲げたり、傷つけたりしないでください。
- 炭酸ガスは無害ですが、排気の際、吸い込まないように気をつけてください。
- 手動作動索及び握り玉が正しい位置にあり、また、本体の外に出ていることを確認してください。



#### 注意

- 磯などの岩や貝または鋭利なものがある場所でのご使用は、気室本体に損傷を与える可能性がありますので十分注意してください。
- 本製品を湿気の多い場所や、雨ざらしの場所に放置したり、濡れたままにしておくと、スプールが水分を感知して自動膨脹しますので、着用しない時は乾燥した場所に保管してください。(P.13参照)
- 着用する前にバックル・胸部ベルト、背部ベルト等の部品が傷ついたり・破損したりしていないか確認してください。(P.5参照)
- 本製品の上に座ったり、重いものを載せないでください。破損や劣化の原因となります。
- 燃料・オイル・溶剤等に近づけないでください。

## 4. 製品の主な規格と概要

### 本製品の基準について

本製品は、船舶設備規定及び小型船舶安全規則に基づく作業用救命衣(小型船舶用救命胴衣兼用)に適合したものです。

船外作業や水中転落の恐れのある作業を行う場合や小型船舶用救命胴衣としてご使用いただけます。本製品は膨脹式の救命胴衣です。手動作動索を引くことで炭酸ガスが気室に充填され膨脹します。水分を感知して自動で膨脹する機能も付いております。

|                 |  |
|-----------------|--|
| タイプ             | 作業用救命衣<br>(小型船舶用救命胴衣兼用)<br>膨脹式(自動膨脹機能付)                            |
| 型式名             | NS-555型  |
| 胴衣の分類           | TYPE A   |
| 国土交通省<br>型式承認番号 | 第 4843 号   |
| 浮力              | 初期浮力 10.0kg<br>(水温20℃、気温8℃において)<br>24時間後 9.8kg<br>(水温20℃、気温8℃において) |
| サイズ             | フリーサイズ   |
| 製品重量            | 約590g(標準品)   |
| 常用圧力            | 16.0kPa  |

- ・ 覆布(カバー布)と気室本体が取り外せるため、覆布の交換が可能です。
- ・ 本製品は手動又は自動でも膨脹できます。
- ・ 本製品には気室本体に再帰反射材と呼子管が付いています。

### ● 本製品をお使いになる前に

ここでは本製品をご使用になる前に必要な確認事項について説明いたします。  
万一不足しているものや不備がございましたら、お買い上げの販売店にご連絡ください。

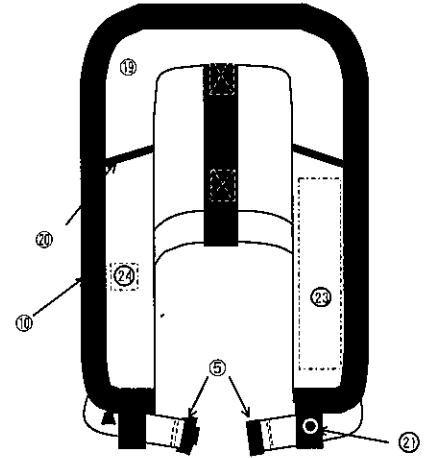
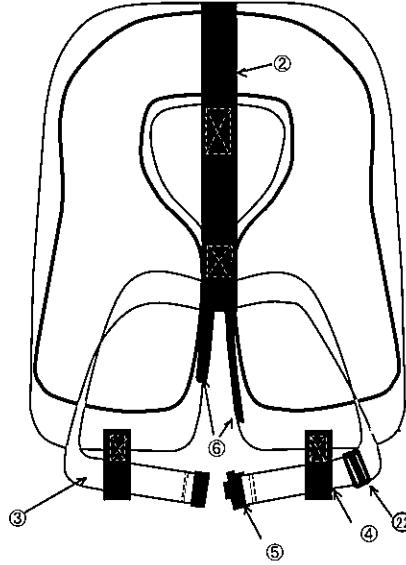
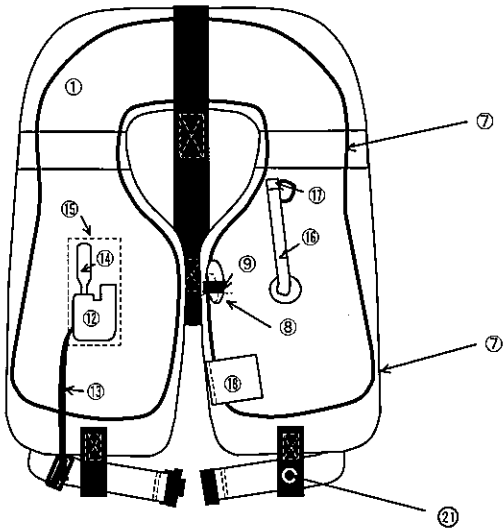
- 本書は16頁から構成されています。乱丁、落丁はありませんか
- P. 6自主点検表に従い毎回必ず点検を行ってください
- 本製品の表示部〔銘板(P.5 ⑱標示銘板布)〕に、検定合格印(サクラマーク)が押印されていますか
- この取扱説明書を全てお読みになり十分にご理解の上、正しくご使用ください

## ● 各部の名称

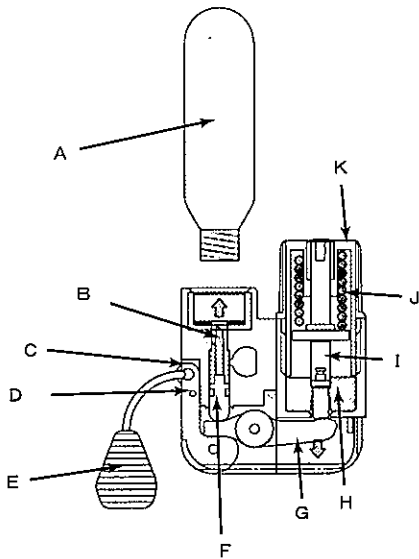
【表面】

【裏面】

【収納時】



### <膨脹装置>



|                  |                         |
|------------------|-------------------------|
| ① 気室本体           | ⑬ 手動作動索                 |
| ② 背部ベルト          | ⑭ ボンベ                   |
| ③ 胴部ベルト          | ⑮ 保護カバー                 |
| ④ 胴部ベルト用ガイド      | ⑯ 補助充気装置(送気管)           |
| ⑤ 胴部ベルト用バックル(*1) | ⑰ 補助充気装置<br>(吸排気弁・キャップ) |
| ⑥ 面ファスナー         | ⑱ 標示銘板布                 |
| ⑦ 再帰反射材          | ⑲ 覆布(カバー布)              |
| ⑧ 呼び笛            | ⑳ たまぶち                  |
| ⑨ 笛固定用ゴム         | ㉑ ホック                   |
| ⑩ 縁取りテープ         | ㉒ 調整環                   |
| ⑪ 縫製糸            | ㉓ 標示ラベル                 |
| ⑫ 膨脹装置           | ㉔ パッド                   |
| A 炭酸ガスボンベ        | G 自動レバー                 |
| B インサート針         | H スプール(水分感知具)           |
| C 手動レバー          | I 伝導軸                   |
| D シールピン          | J 作動スプリング               |
| E 手動作動索及び握り玉     | K キャップ                  |
| F 撃針             |                         |

(\*1) Sailing タイプは SUS バックル及び左側のバックルの横にD環が付きませ

### <膨脹装置のしくみ>

構成部品は、膨脹装置（本体）、炭酸ガスボンベ、スプール（水分感知具）、キャップ（伝動軸付スプリング内蔵）等からなり、膨脹装置の中には自動レバー、撃針、インサート針、手動レバーが付いています。

膨脹装置は、手動索を下方へ引くと手動レバーが上がり、撃針を押し上げ、インサート針でボンベの封板を破り炭酸ガスが気室に充填される仕組みです。

また、補助的に本体に取付けてある装置に水が入って水の作用により自動的に装置が作動し、膨脹する機能も付いています。これは、スプールが水分を感知し、スプール内の材料が溶解することにより伝動軸が自動レバーを押し、撃針を押し上げ、インサート針でボンベの封板を破り炭酸ガスが気室に充填される仕組みです。

膨脹装置は重要な装置です。乱暴に扱ったり、強い衝撃を与えたりまた分解しないで下さい。

## 5. 自主点検表



**\* ご使用前に毎回必ず点検を行ってください**

| 部位           | 点検項目・方法        | 点検内容  | 日付 | 点検結果 |
|--------------|----------------|---|----|------|
| 覆布<br>(カバー布) | 外観<br>機能<br>目視 | 1. 傷、穴などの損傷がないこと  |    |      |
|              |                | 2. 縫い糸の切れやほころびがないこと   |    |      |
|              |                | 3. 面ファスナーがしっかりと接合され、本体気室が確実に収納されていること   |    |      |
| 気室本体         | 外観<br>機能<br>目視 | 1. ベルトに傷、磨耗などの損傷がなく、劣化していないこと   |    |      |
|              |                | 2. ベルトの縫い糸の切れやほころびがないこと   |    |      |
|              |                | 3. バックルに損傷、劣化等がなく正しく機能すること  |    |      |
|              |                | 4. 調整環に損傷、劣化等がなく正しく機能すること   |    |      |
|              |                | 5. 気室本体の表面に傷、穴、磨耗等による損傷がないこと  |    |      |
|              |                | 6. 気室本体の縫い糸（バックル、再帰反射材、面ファスナー、笛固定用ゴム、ベルトガイド取り付け部等）の切れやほころびがないこと。SailingタイプについてはD環の縫い付け部分についても必ず確認すること |    |      |
|              |                | 7. 気室本体に汚れや変色、劣化がないこと   |    |      |
|              |                | 8. 気室本体の各溶着部に剥がれがないこと   |    |      |
|              |                | 9. 補助充気装置（送気管、吸排気弁及びキャップ）に損傷や劣化ゆるみがなく、正しく作動すること。キャップがしっかりと取り付けてあること                                   |    |      |
|              |                | 10. 再帰反射材に損傷や劣化がないこと  |    |      |
|              |                | 11. 銘板布の表示が確認できること  |    |      |
|              |                | 12. 笛が確実に取り付けられており、音が出ること   |    |      |
|              |                | 13. 漏洩（気密）試験<br>補助充気装置のキャップを外して、送気管の口から空気を入れて気室をいっぱい膨らませ24時間放置した後、気室内の空気が減少していないこと（注：1）               |    |      |
| 膨脹装置         | 外観<br>機能<br>目視 | 1. 膨脹装置に損傷や変形がないこと  |    |      |
|              |                | 2. インサート針の先端にへたりがないこと   |    |      |
|              |                | 3. ポンベの封板に傷や穴があいていないこと。一度使用したポンベは再使用不可能（ポンベを取り外し、封板を要確認）  |    |      |
|              |                | 4. ポンベに錆や変形等がなく、表面に刻印してある重量があること（ポンベを取り外し計量すること）  |    |      |
|              |                | 5. 手動作動索及び握り玉に磨耗や劣化がなく、作動索を引くことにより撃針が円滑に作動すること（ポンベに作用してしまうため、必ず取り外しておこなうこと）                           |    |      |
|              |                | 6. 膨脹装置とポンベの接触するパッキンに損傷や劣化がないこと（ポンベを取り外して確認すること）  |    |      |
|              |                | 7. 手動レバーが正しい位置にあり、シールピンが正確に装着され固定されていること  |    |      |
|              |                | 8. 未使用のポンベが膨脹装置にしっかりとねじ込まれて装着されていること  |    |      |

| 部 位   | 点検項目・方法        | 点検内容  | 日付 | 点検結果 |
|-------|----------------|---|----|------|
| 膨脹装置  | 外観<br>機能<br>目視 | 9. 手動作動索及び握り玉が正しい位置にあること  |    |      |
|       |                | 10. 膨脹装置本体がしっかりと取り付けてあり、取り付けネジの緩みやガタつきがないこと。また、膨脹装置は絶対に取り外さないこと |    |      |
|       |                | 11. 保護カバーに損傷等がなく、膨脹装置に正しく装着されていること                              |    |      |
|       |                | 12. スプール（水分感知具）の交換時期が過ぎていないこと。スピールの製造年月はスプール本体に明記されているので確認すること  |    |      |
|       |                | 13. スプール（水分感知具）に溶解や異常がないこと                                      |    |      |
|       |                | 14. 膨脹装置のキャップをしっかりと正確に締め、中央の伝動軸（金属部）がキャップの上面にあること               |    |      |
| 本体収納後 | 外観<br>目視       | 1. 気室本体が取扱説明書通りに折りたたまれて、確実に覆布（カバー布）の中に収納されていること                 |    |      |
|       |                | 2. 膨脹装置の手動作動索及び握り玉が外に出ていること                                     |    |      |
|       |                | 3. ベルトのねじれ等がないこと  |    |      |
|       |                | 4. 気室本体を損傷する恐れのある突起物や鋭利なものがついていないこと                             |    |      |

（注：1） 漏洩（気密）試験の後は、充気した空気を最後まで完全に抜き取って（例：掃除機によるバキューム等）ください。また、この試験を行う際、補助充気装置（送気管、吸排気弁及びキャップ）が損傷しない様、十分注意して行ってください。

※ 点検結果で不良があった場合は使用を中止してください。

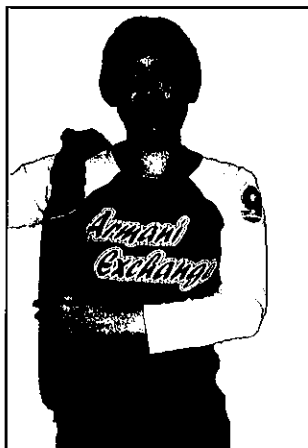
※ 交換部品（スプール、ポンベ、シールピン）が必要な場合は、販売店から専用部品を取り寄せて交換してください。

※ 少なくとも1年に1回、販売店を通してサービスステーション又は当社にて点検を実施してください。（有償）

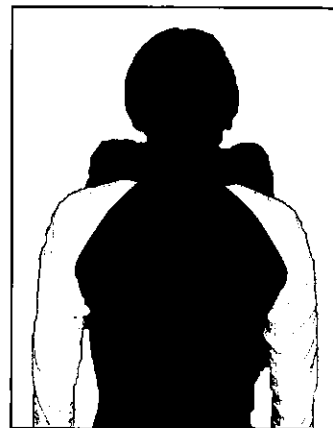
**⚠ 危険**

## 6. 着用方法及び使用方法

1. 銘板が付いている方を内側にし、ベルトと本体の開口部に腕を通してください。



2. 背部ベルトが背中の中の中心にくる様、調節してください。



3. バックルをしっかり確実に(カチッと音がするまで)装着してください。

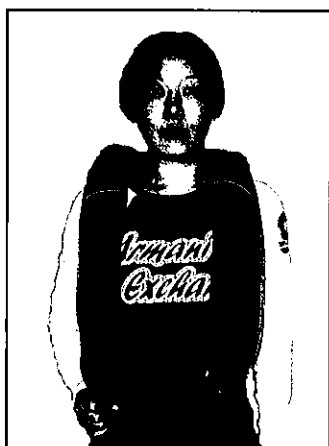


- \* Sailingタイプのバックル装着方法は下記の写真をご参照ください。

4. 胴ベルトを引っ張り、身体に密着するようにサイズを調節してください。余ったベルトは垂れ下がらないように、調整環で調整するか胴部に巻き込んでください。



5. 本製品を膨脹させる場合や落水時には、手動作動索を下方へ引きご使用下さい。膨脹装置が一定時間以上水没すると装置が作動し膨脹しますが、この機能は補助的なものです。



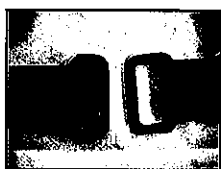
6. 万が一膨脹装置が作動しない場合や膨らみが十分でない場合は、補助充気装置の送気管の上部にあるキャップをはずし、吸排気弁(チューブの先)から息を吹き込みます。気温や水温の影響等で、十分な浮力が得られない場合は使用しないでください。



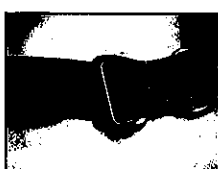
### <Sailing タイプのバックルの場合>

左側のバックル(口形)の中へ右側のバックルを体側から通すように入れて合わせ、最後に両側に引いて抜けないことを確認してください。

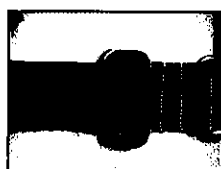
①



②



③



## **⚠ 危険**

水中では、絶対にガス等の気体を抜かないでください。



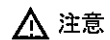
## 7. ご使用後の取扱いについて

- ・ 本製品膨張させなかった日は、真水で濡らした布等を固く絞り、汚れや塩分を丁寧に拭き取ってください。
- ・ 本製品を膨張させた場合は、補助充気装置の送気管上部のキャップを外し、キャップのつば部分を管に差込み、吸排気弁を押して気室本体内の炭酸ガス等の気体を完全に抜き取ってください(下の写真を参照ください)。その後キャップをしっかりと閉め、気室内部に水や空気が入らないように注意して真水でよく洗い、風通しのよい場所で陰干しをし完全に乾かしてください。気室本体と膨脹装置(内部まで)が完全に乾いていることを確認してから新しいスプール・ポンベ・シールピンを取付けてください。



危険

膨脹させた場合は、未使用のスプール・ポンベ・シールピンと交換することを忘れずに行ってください。



注意

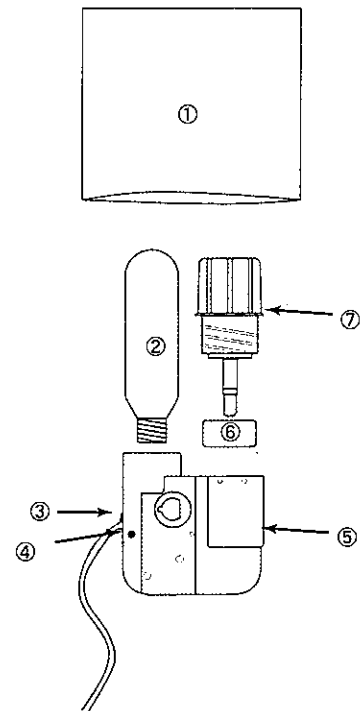
洗剤を使う場合は中性洗剤ときれいな布を使用し、汚れをふき取るように優しく洗浄した後、真水を浸した布で洗剤を完全に除去してください。溶剤やアルコール等の薬品は使用しないでください。また、洗濯機の使用やドライクリーニングは行なわないでください。気室の表面を傷つけないように注意してください。



キャップのつば部分を送気管の管に差し込んでください

- ① 保護カバー
- ② 炭酸ガスポンベ
- ③ 手動レバー
- ④ シールピン
- ⑤ 本体
- ⑥ スプール (水分感知具)
- ⑦ キャップ

### <膨脹装置>



危険

- スプールとポンベの交換方法及び再セットの方法 (上記参照)

本製品は気室本体の構成部が破損しない限り、スプールとポンベを交換することにより再度使用することができます。スプールとポンベの交換方法は次の方法で行ってください。(スプール及びポンベは、本製品を実際に水中で使用した場合または、遅くとも購入後1年を経過する前に交換してください。)

- ① 使用済みポンベを左に回して取り外してください。
- ② 膨脹装置のキャップを左に回してはずし、使用済みのスプールを取り出してください。
- ③ 新しいスプールを膨脹装置の中に挿入し、膨脹装置のキャップをしっかりと締め、キャップ中央部の伝動軸(金属部)がキャップの上面にあることを確認してください。(この時、膨脹装置の中の水分は完全に拭き取るか乾燥させてください。また、スプールはどちらが上になっても支障ありません)
- ④ 手動レバーがもとの場所にきちんと戻っており、シールピンが装着してあることを確認してください。
- ⑤ 未使用のポンベを右に回して、膨脹装置のネジ込み口底のパッキンまで締め込み、そこから更に1/4~1/2回転させ、しっかりとねじ込んでください。
- ⑥ P. 10の折りたたみ方に従って収納してください。
- ⑦ 手動作動索及び握り玉が本体の外側に出ていることを必ず確認してください。

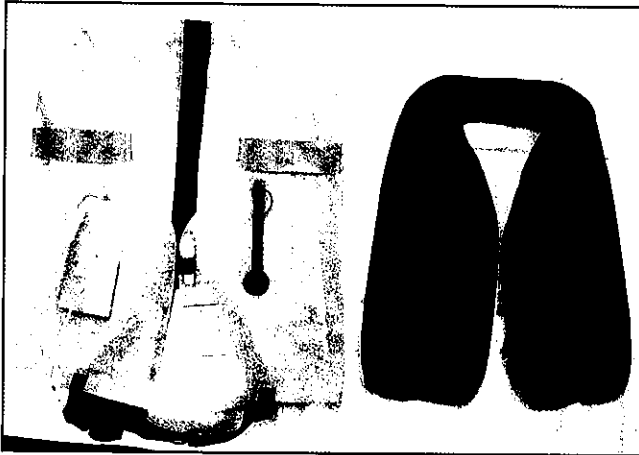
**警告**

● 折りたたみ方法

**注意**

- ・ 気室本体を傷つけないように注意して折りたたんでください
- ・ 折りたたみ方法を誤ると正常な形で膨張しない場合があります
- ・ 折りたたみ作業を行う際は、きれいな場所で気室本体を傷つけるようなものがないところで行ってください

① 気室本体は再帰反射材・膨脹装置が付いている面を上に向けて置いてください。覆布（カバー布）は表示ラベルが付いている面を下にして、面ファスナーを外して開いて置いてください。



② 覆布（カバー布）の上に気室本体を重ねるようにして置きます。



③ 左右の面ファスナーを止めます。面ファスナーの長さが左右異なっていますので、長さの同じもの同士を間違いのないように合わせて止めてください。（銘板布がついている側が左側で面ファスナーが短く、膨脹装置が付いている右側に長い面ファスナーが付いています）  
止める際は、気室本体側の面ファスナーの内側の縁と覆布（カバー布）側の面ファスナーの内側の縁を合わせて止めてください。  
また、覆布（カバー布）と気室本体の面ファスナーの太さも異なります。止めた後、覆布（カバー布）側の面ファスナーが外側に約1cm余っていることを確認してください。

<左側>



<右側>



面ファスナーの内側の縁を合わせて止める。



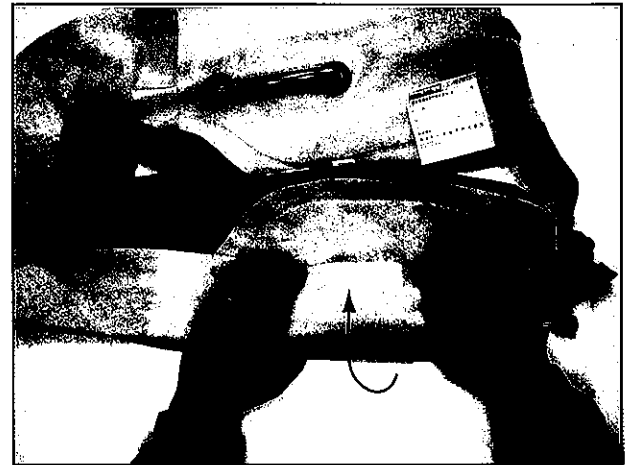
面ファスナーが外側に約1cm余っていること。



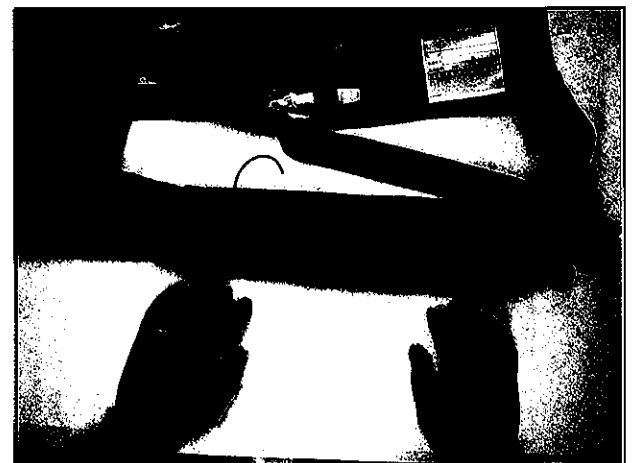
- ④ 膨脹装置裏側の気室本体と覆布（カバー布）の間にパッドを入れます。



- ⑤ 気室本体を覆布（カバー布）の中に折りたたみます。  
気室本体を外側から覆布（カバー布）の大きさに合わせて内側に折りたたみます。



次に③で気室本体と覆布（カバー布）を止めた側を折りたたみ、覆布の面ファスナーを止めてください。この作業は左右同じ要領で行ってください。



- ⑥ 左下部（平らな面に置き正面から見たとき）から手動作動索及び握り玉が出ていることを必ず確認してください。

上記を確認後、覆布（カバー布）下部の面ファスナーを左右止めてください。



- ⑦ 気室本体上部を覆布（カバー布）の中に折りたたみます。

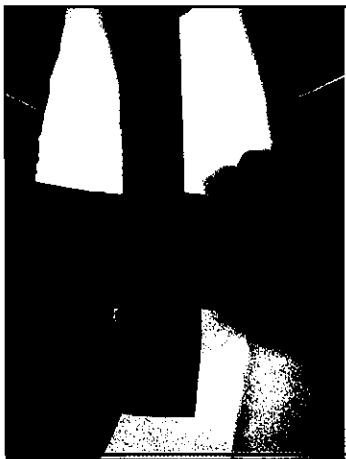
まず、左右の角を斜めに折ります。



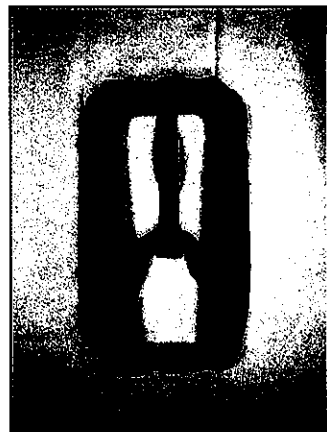
- ⑧ 上部より覆布（カバー布）の大きさに合わせて折ります。この時、背部ベルトを巻き込まないように注意してください。



- ⑨ 上部の、面ファスナーを止めます。面ファスナーの付いていない中心の部分に背部のベルトがくるようにして、真ん中から面ファスナーを止めてください。



- ⑩ 続いて全体の面ファスナーがシワにならないように全体を止めてください。



**警告**

- ⑪ 折りたたみ終了後、下記の点検を行ってください。

- a 手動作動索及び握り玉が左下部（平らな面に置き正面から見たとき）より出ていること
- b ベルトのねじれがないこと
- c 面ファスナーが正しく、しっかりと止まっていて気室本体が覆布（カバー布）から出していないこと

## ● 保管上の注意及びメンテナンス













- ① 高温、低温、多湿、直射日光の当たる場所、海水・雨水の浸入しやすい場所及び火気の近くでの保管はお止めください。膨脹装置の誤作動や本製品の破損、劣化の原因となります。
- ② 本製品を濡れたまま収納すると湿度でスプールが作動することがあります。濡れている場合は、陰干してから保管してください。
- ③ 覆布(カバー布)は気室本体を保護する役割を兼ねています。気室本体が見えていると損傷の原因となりますので、必ずP. 10の折りたたみ方に従い気室本体が見えないように収納し保管してください。
- ④ ネズミの害のある場所は避けてください。
- ⑤ 本製品の上に重い物を置いた状態で保管しないで下さい。気室本体に傷が付いたり、膨脹装置が破損する恐れがあります。
- ⑥ P. 6の自主点検表に従い、点検と確認を必ず行ってください。
- ⑦ 少なくとも1年に1回定期的な点検を販売店へ依頼し、サービスステーション又は製造元で点検を実施してください。(有償)

## 8. 製品の交換時期及び廃棄の方法

下記のような兆候が製品に現れた場合や、目に見える破損がある場合は新しい製品又は交換部品をお買い求めください。

### <交換時期>

-  危険 ① 気室本体が破損や損傷しているとき  
⇒ 新しい製品をお買い求めください
-  警告 ② 覆布が磨耗したり、面ファスナーが疲労して気室本体を保護することが難しい場合  
⇒ 新しい覆布と交換してください
-  危険 ③ 膨脹装置にひび等が入り、気密性に問題が生じる可能性がある場合  
⇒ 新しい製品をお買い求めください
-  危険 ④ 補助充気装置及び送気管が破損している時  
⇒ 新しい製品をお買い求めください
-  危険 ⑤ 腰ベルト及びバックルが破損しているとき  
⇒ 新しい製品をお買い求めください
-  警告 ⑥ 外装布が油等の汚れで表示が見えなくなったとき  
⇒ 新しい覆布と交換してください
-  危険 ⑦ 気室本体又は付属品の縫製糸がほつれたり、切れたとき  
⇒ 新しい製品をお買い求めください
-  危険 ⑧ 気室本体、付属品等の色が退色しているとき  
⇒ 新しい製品をお買い求めください
-  危険 ⑨ スプール、ポンベ及びシールピンを使用して本製品を膨脹させたとき  
⇒ 替えポンベセット(スプール、ポンベ、シールピン)をお買い求めください
-  警告 ⑩ スプールは、経年劣化により膨脹装置の作動時間が長くなるため、遅くともご購入後1年以内で定期的に交換してください。使用環境や保管状況によっては、更に劣化の進行が早くなりますので、早目の交換を推奨いたします。

### <廃棄方法>

- ・ 廃棄される場合、産業廃棄物として処理業者に依頼して処分するか、または、各地方自治体の処理方法に従って廃棄してください。

## 自己点検記録用メモ

| 日付 | 点検内容 | 点検結果 |
|----|------|------|
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |
|    |      |      |

# お願い

本製品をご使用いただく前に、必ず、添付のユーザー登録カードを弊社宛てにご返送ください。ユーザー登録を行っていない場合、大切なお知らせ等、ご連絡できない場合があります。

また、本製品に関しての不良・不具合等に関しましては、販売店もしくは下記の連絡先までご連絡ください。

|                    |   |   |   |
|--------------------|---|---|---|
| お買上日               | 年 | 月 | 日 |
| 販売店名<br>又は<br>ご購入先 |   |   |   |

## 本書について

- ・ 本書の内容の一部または、全てを無断で転載することは禁止されております。
- ・ 本書の内容について、予告なく変更することがございます。
- ・ 本書の内容については万全を期しておりますが、万一不審な点や・誤記・記載漏れなどお気づきの点がございましたら、弊社または販売店までご連絡ください。



国土交通省型式承認・船舶用救命器具製造メーカー

日本船具株式会社

|      |          |                      |                  |
|------|----------|----------------------|------------------|
| 本社   | 108-0071 | 東京都港区白金台1丁目5番5号      | TEL 03-3447-7272 |
| 君津工場 | 299-1173 | 千葉県君津市外箕輪80番1        | TEL 0439-52-6114 |
| 富津工場 | 293-0052 | 千葉県富津市宝竜寺354番地2      | TEL 0439-66-0387 |
| 阿寒工場 | 085-0214 | 北海道釧路市阿寒町富士見1丁目16番9号 | TEL 0154-66-2993 |